

事例研究報告

特別支援学校小学部児童の 適切なコミュニケーションを 目指した取り組み

児童の実態

- 自閉スペクトラム症の小学部男児。
- 平仮名を書くことができる(形は崩れやすい)。
- 決まった方法で1～12までの数字2つを足すことができる。
- ひらがな表記のスケジュールを使用している。
- 発音は不明瞭である。
- 意思伝達は文字盤を使用。決まった形は手本を見なくても一文字ずつ示して伝えることができる。
- 言語指示は、状況と知っている単語を加味して想像している。
- 行動の意味を理解していないことが多い。
- 場面に合った挨拶ができる。
- パニック, 他害あり。天気や気温で不安定になる。
- 注目行動が多い。

教員の考え

「文字盤を使用して、意思表出できるようになる。」

→パニックや不安の原因が、
“何か”を伝えること。

不明瞭な発音をカバーするツールとして文字盤を使用。

→理由を伝えられるようになることで

パニックや他害が減ることを期待。



アドバイザーからの助言

【文字盤の活用について】

- 文字と音が一致しているかどうかの確認をする。
- 正しい音声模倣ができるかどうかの確認をする。

【他害について】

- 他害をしたことで、本人の不利益になるように設定する。
- 他害がダメだということを視覚化して示す。

【パニックについて】

- 落ち着くまでのルーティーンを設定する。
- 「パニックがなくなる」ではなく「パニック後の復帰までの時間を短くする」ことを目標にする。



指導目標の見直し

【文字盤の活用について】

- 正しい音声模倣ができるかどうかの記録をつけた。
教師「 あ 」 → 本児「 あ 」
- 文字と音が一致しているかどうか(聞き取る力)の記録をつけた。
一致していない文字に対して, 指導を行った。
教師「 あ 」 → 本児 (文字盤で「あ」を指さす)

指導目標の課題分析

【指導目標】

45音中27音(60%)を正しく聞き取ることができる。

【手続き】(指導期間①)

「あ」～「ん」(「ゐ」「ゑ」「を」を除く)の正音45音で実施する。

- ①教師が発した1音を聞き、聞こえた音を文字盤で指さすよう促す。
- ②前回正答したにも関わらず今回誤答だったものを再度確認する。
- ③誤答の中で、いつも同じ間違いのものについて、指導を行う。

【達成基準】

①～④の指導手続きにおいて、45音中27音を正しく聞き取ることが3日連続でできたら目標達成とする。

【中止基準】

①～④の指導手続きにおいて、正しく聞き取ることが45音中24音以下(55%)が3日間続くと中止し、指導手続きを再考する。

指導目標の課題分析

【手続き】(指導期間②)

- ①ー1 平仮名表記1文字ずつのカード(以下, 文字カード)を使用し, 「ア行」と「カ行」のように隣合う10文字を机上に並べて提示する(「あ・い・う・え・お」を縦に5枚, 左側に「か・き・く・け・こ」を縦に5枚)。
- ①ー2 教師が発した1音を聞き, 聞こえた音を文字カードから選ぶよう促す。
- ①ー3 正答の場合は「はい」誤答の場合は「ブー」と言い, 正誤を示す。
- ①ー4 誤答の場合は選んだ文字カードを発音して, 机上に戻し, 再度「く」と発声して, 別の文字カードを選ぶよう促す。
- ①ー5 正答するまで繰り返す。
- ②ー1 教師が発した1音を聞き, 聞こえた音を文字盤で指さすよう促す。
- ②ー2 誤答の場合は, 正しい文字を指さしながら, 再度音声表記する。
- ②ー3 45音確認し終わったら, 前回は正答だったのにも関わらず今回誤答だったものについて, 再度聞き取りを促す。
- ②ー4 2度目の聞き取りで正答だったものについては, 正答とみなす。

記録方法と記録

記録方法：正しく聞き取れた数と誤答の様子を記録する。

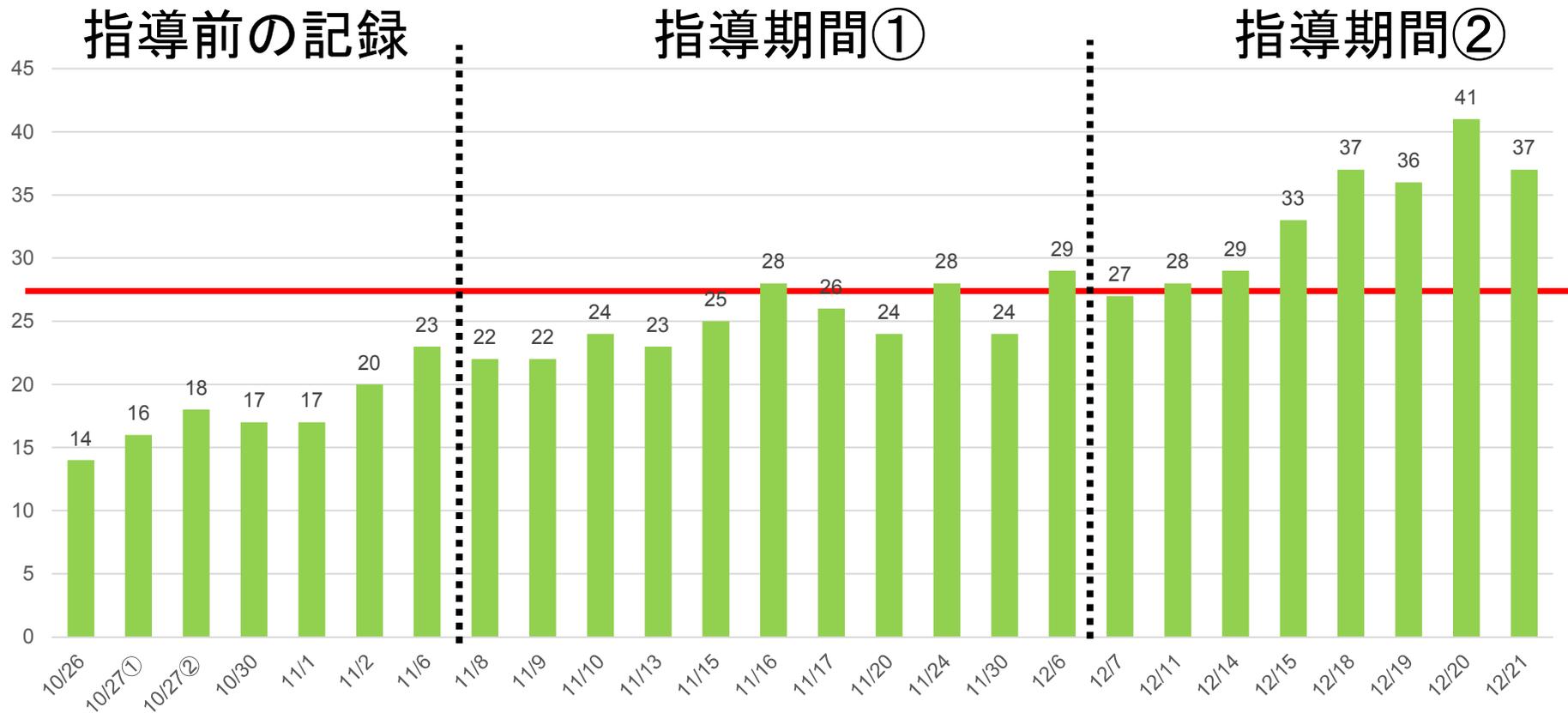
記録表

- ・正答は「○」で表記。
- ・誤答の様子は、ひらがなで表記。
- ・指導した文字については表外に記録。

や	○	○	○	○
ゆ	○	○	○	○
よ	○	○	○	○
ら	ま	○	お	お
り	○	○	○	○
る	○	ふ	く	ふ
れ	○	○	○	○
ろ	○	○	○	る
わ	○	○	○	○
ん	○	○	○	○
正答数	37	39	37	34
不当数	8	6	8	11
正答率	82%	87%	82%	76%
指導	サ行～ ラ行		ア行～ ラ行	ア行～ ラ行

記録方法と記録

- 正答数の推移



記録方法と記録

- 誤答の種類(指導前の記録から)

①子音が聞き取れず間違う

「 ひ 」 → 「 き 」

②法則性がない

「 ろ 」 → 「 ふ, お 」

③間違えて覚えている

「 つ 」 → 「 せ 」

- 分からない時に、指導された文字ばかり答えることが増えた。
 - 指導や修正をされないように、答えているだけで聞き取っている訳ではないと予想した。
 - 手続きを再考。

指導の成果

【文字盤の活用について】

- 文字と音が一致していないことが分かった。
- 間違えて覚えている文字も多いことが分かった。
- 音声模倣 10/26 12音(27%)→12/18 22音(49%)
- 聞き取りの力 10/26 14音(31%)→12/20 41音(91%)
- 言語指示への理解度が低い理由が明確になった。
→全ての文字と音が一致すれば、**言語指示への理解力アップ**につながるのではないかと期待。

ここが成功のポイント



- 一文字ずつ文字と音が一致しているかの確認を行ったこと。
- 教師の指示や反応を, 精選したこと。
- 本人に合った指導方法(言語指示と文字盤の活用)に変更したこと。